

---

## 目次

1. インストールと環境設定 .....	2
2. WIT 顧客 RIA の起動 .....	18
3. WIT 顧客 RIA 内での設定 .....	20
4. ReportsMagic の使用に関して .....	23
5. RIA サーバ版を使って運用する場合 .....	24
6. WIT 顧客 RIA が起動しない場合 .....	36
付録 カursorのフォーカス色を変える .....	37

## 第1章 インストールと環境設定

本システムは、Magic xpa 4.6 用の顧客管理パッケージとして作成いたしました。  
製品付属の CD-ROM の中身は、以下のようになっています。

ファイル名(フォルダー名)	内 容
WitKokyaku40.zip	本システム一式のモジュール
インストールガイド	本書
操作ガイド	操作説明書
開発者ガイド	開発者向けの解説書
データコンバート	旧バージョンからのデータコンバート方法

### 1-1 前提条件

本システムを実行するためには、以下の環境が整っていることが前提条件になります。

#### ・「.Net Framework 4.0 以上」(必須)

Magic xpa は .NET Framework を必要とします。

RIA アプリケーションを実行するマシンにおいて .NET Framework 4.0 以上を有効にしてください。

■Windows 8/10 においては .NET Framework がデフォルトでは無効になっていますので、コントロールパネルの「プログラムと機能」の「Windows の機能の有効化または無効化」で有効にしてください。

■Windows Server においては、サーバマネージャーの「機能の追加」で .NET Framework を有効にしてください。

#### ・「Web サーバ(IIS:Internet Information Service)」(必須)

■Windows 8/10 においては、デフォルトでは IIS が有効になっていませんので、有効にしてください。

IIS のどの機能を追加するかは、Magic xpa のインストールガイドの最後の方(OS の環境設定)に載っています。

■Windows Server においては、サーバマネージャーの「役割の追加」で IIS を追加してください。

IIS のどの機能を追加するかは、Magic xpa のインストールガイドの最後の方(OS の環境設定)に載っています。

#### ・「データベースエンジン」(以下のうちいずれか必須)

以下の DB に対応しています。DB エンジンそのものは、あらかじめインストールしておく必要があります。

- ・Pervasive .....v12 for Magic、v13 for Magic
- ・MS-SQL Server ... 2012、2014、2016、2017

DB にアクセスするための Magic 用ゲートウェイが必要になります。

各ゲートウェイは、Magic xpa インストール時に一緒にインストールしてください。

※ SQL Server インストール時は、「SQL Server 認証」でインストールし、「ログイン名/パスワード」を設定してください。

#### ・「Magic xpa 4.6 開発版(Enterprise Studio)」(必須)

まずは開発版で動作確認をします。

実際に本番稼動する場合には、「Magic xpa RIA Server」が必要になります。

Magic xpa 製品のインストールについては Magic xpa 製品のインストールガイドをご覧ください。

・「PDF ファイルを出力するソフト」(必須ではありません)

本システムには、見積書を PDF ファイルに出力する機能があり、その機能を使用したい場合は PDF 出力ソフトが必要です。その機能を使用しないのであれば、PDF 出力ソフトは不要です。

PDF 出力ソフトの条件として、PDF ファイルを決められたフォルダー内に自動保存できる機能を持っているものでなければなりません。主な PDF 出力ソフトでの動作検証結果は以下のようになっています。

- ・マイクロリンク社の「SkyPDF」  
正常に動作することを確認しています。処理速度も高速です。  
クライアント上で動作するクライアント版と、サーバ上で動作するマルチスレッド版があります。
- ・「Adobe AcrobatXI」  
正常に動作することを確認しています。ただし、処理速度はあまり高速ではありません。  
(ネットワーク上で複数人が使用する場合はライセンスについては、Acrobat 側のライセンス契約をご確認ください)

・「電子メールが送信できる環境」(必須ではありません)

本システムには、見積書の PDF ファイルを先方担当者宛てにメール送信する機能がありますが、その機能を使用したい場合はメール送信できる環境が必要です。

見積書のメール送信機能を使用しないのであれば、環境を準備する必要はありません。